

## 【トピックス】

### 二酸化炭素回収・貯留（CCS）の国際標準化

公益財団法人地球環境産業技術研究機構企画調査グループ

各ワーキンググループ（WG）に分けて分野別の活動内容を報告します。現在 WG1 から WG6 まで 6 つの WG が設置されており、WG6 を除いたそれぞれの検討分野を図 1 に示します。

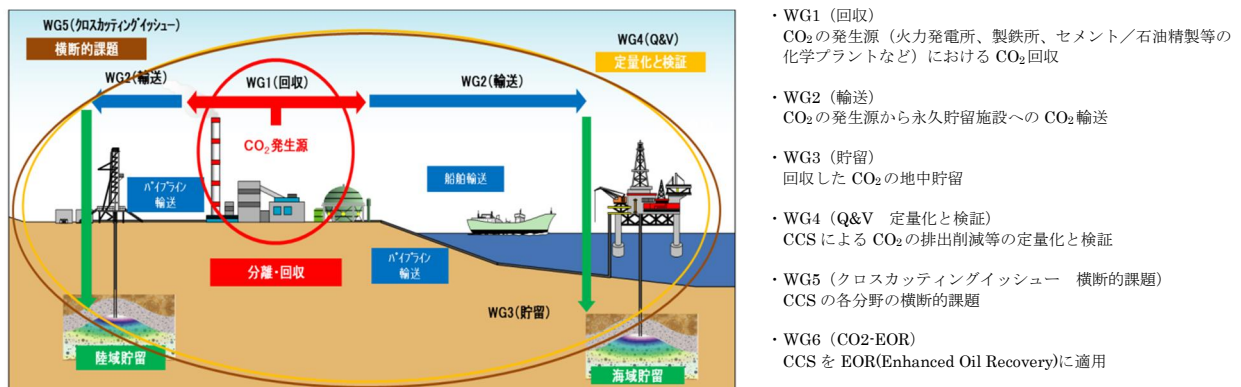


図1 各WGの検討分野

2013年9月に「回収」、「輸送」、「貯留」、「横断的課題」の4つのWGにおいて新業務項目提案(NWIP)が了承され、規格開発作業が具体的にスタートしています。2013年12月時点で、さらに「定量化と検証」および「CO<sub>2</sub>-EOR(石油増進回収法)」についても、NWIPが各国の投票にかかっており、規格開発作業に向けて準備を進めている状況となっています。

各WGにおける2013年の主な活動状況および今後の予定(2014年1月時点)は以下のとおりとなっています。

#### WG1(回収)

2013年9月に第1回WG1を北京(中国)で開催しました。そこでは、標準(IS)開発に先立って、TR(Technical Report)を開発することについて、参加各国の合意が得られ、日本から提案したシードドキュメントをドラフトとして、各セッションエディタを決め、セッション別に編集作業を進めていくことが決議されました。

今後は、2014年2月に電話会議により各セッションの進捗状況を確認しつつ、3月の第2回WG2での議論を経て、2014年秋口のWD(Working Draft)完成を目標に編集作業に取り組んでいきます。日本がコンビーナと事務局を務め、議論を積極的に

リードしています。



第1回 WG1の様子

### WG2（輸送）

2013年6月に第1回WG2がボン（ドイツ）で開催されました。そこでは、種々のCO2輸送手段のうち、まずパイプライン輸送についての標準（IS）を開発することがドイツから提案され、承認されました。具体的にはDNV（ノルウェー）のDNV-RP-J201をシードドキュメントとし、セクション別に分けて編集リーダを決定し、2014年2月の第2回WG2に向けて詳細検討を行っています。2016年の標準化を目指して日本からも検討に参加して作業を進めています。



第1回 WG2の様子

### WG3（貯留）

2013年9月に第1回WG3がトロント（カナダ）で開催されました。そこでは、陸域および海域貯留に関する標準を開発するため、北米で利用されている既存国内標準CSA-Z741をシードドキュメントとして、各章毎にTP（Technical Panel）を作り、編集作業を進めることで、参加各国が合意しました。今後、2017年の標準化を目指して、検討を進めていきます。日本もコンビーナを務め、海域貯留及び地震国でのCCS実現に向けて積極的に議論をリードしていきます。

### WG4（定量化と検証 Q&V）

2013年9月に第1回WG3が北京（中国）で開催されました。そこでは、標準（IS）開発に先立ってTRを開発することが提案されました。現在提出されたNWIPの提案内容について各国で検討されていて3月までに投票が実施されます。国内においても関係者で議論し、賛否の投票を行います。

#### WG5（横断的課題 クロスカッティングイシュー）

2013年9月に第1回WG3が北京（中国）で開催されました。そこでは、CCSに係るボキャブラリについての標準を開発することで、参加各国が合意しました。2016年の標準化を目指して検討を進めていきます。その作業と平行してシステムインテグレーションの議論も始まっていきます。

#### WG6（CO2-EOR）

2013年9月に第3回TC総会において、米国とノルウェーの共同提案により、新たにCO2-EORに関するWG6が設立されました。

2013年12月にCO2-EORに関するNWIPが提出され、現在各国で投票に向けて検討が進められています。このWGの検討内容はCCSの全体に関係しますが、他のWGにおける議論との重複を避ける必要があります。今後提案内容について国内の関係者で議論し、賛否の投票を行なうとともに今後の国内の検討体制を整える必要があります。

我が国がこれまで培ったCCS全般に関する技術、知見が適切に国際標準に反映されるように、積極的に取り組んで参ります。